

第二一九回ペン川柳会

令和四年八月二十九日

お題 「休・休む」

■ 西川 (酔雅)
すいが

卒サラ後ふと懐かしむずる休み
歩くより休むのが多い八十路爺

■ 三春 (火酒)
ウオツカ

張り紙の「臨時休業」色褪せる
汗だくで辿りついたら休館日

■ 浜田 (我々好)
ウイスキー

酒旨し肝に休みのヒマはなし
予定表通院あれど休肝なし

■ 塚田 (拿々)
だだ

休肝日理由をつけて今日も飲む
单身を休みに誘うキタのママ

■ 松谷 (零門)
れいもん

一年中休みやすみで呆け進み
お題「休」だけど投句を休めない

■ 山縣 (安兵衛)
やすべえ

手が足りぬ本日休診とも言えず
まだ染るコロナバカヤロ休んじやえ

■ 八木 (明迷)
めいめい

夏休み豪華ホテルで隔離され
我が辞書に休暇はないと定年後

■ 大野（だし）

夏休み子供のコロナに逃げ回る
この双六何回休むルールやら

■ 安藤（晃二）

てるつぐ

今日休場帰宅土産にさくら買い
休み明け小一のセミ断末魔

■ 稲宮（井波）

いなみ

核ちらり休まず闖入恥を知れ
煽げども休み続ける黒田風

世話人 塚田 實（だ々々）